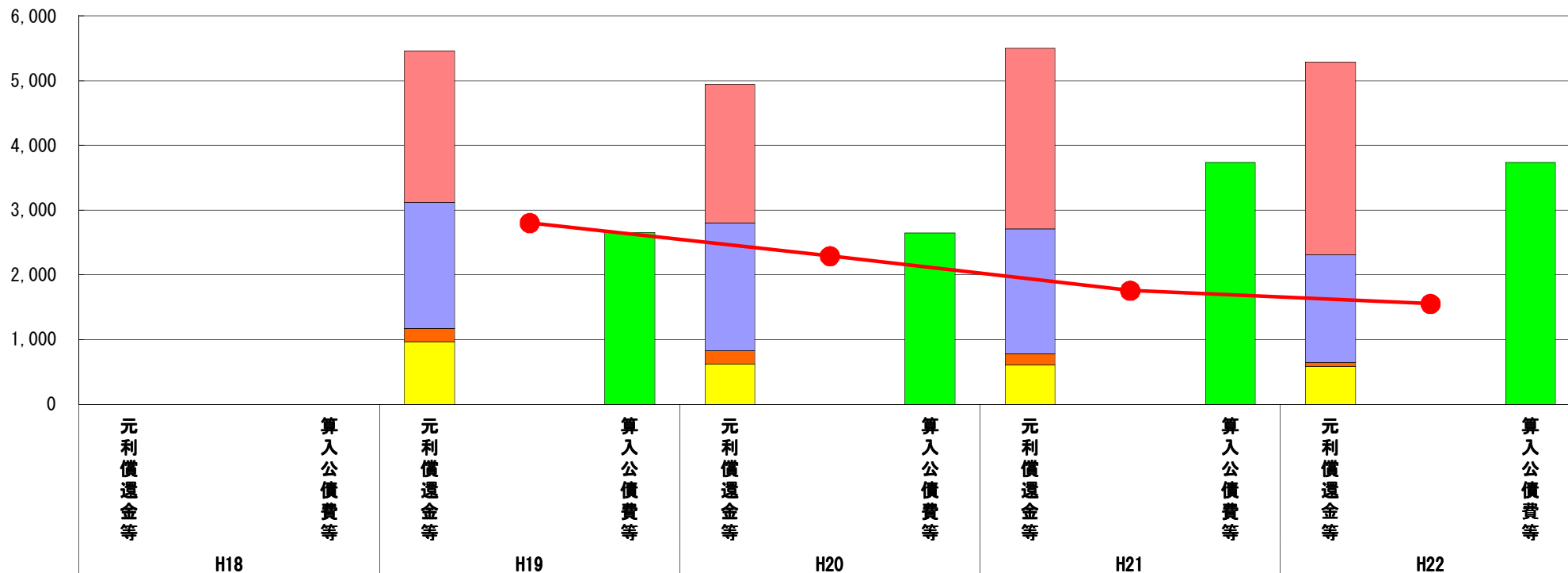


(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

愛知県東海市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
元利償還金等(A)	元利償還金	-	2,343	2,138	2,785	2,981	
	積立不足額考慮算定額	-	-	-	-	-	
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-	
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	1,946	1,971	1,928	1,662	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	209	205	175	58	
	債務負担行為に基づく支出額	-	965	629	612	591	
	一時借入金利息	-	-	-	-	-	
算入公債費等(B)	算入公債費等	-	2,660	2,651	3,743	3,738	
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	-	2,803	2,292	1,757	1,554	

分析欄

実質公債費比率の分子については、元利償還金が前年比約2億円増加したものの、公営企業債の元利償還金に対する繰入金が前年比約2.7億円減少するなど、元利償還金等(A)全体としては約2億円の減少となった。そのため、算入公債費等(B)の値はほぼ横ばいであるものの、実質公債費比率の分子は約2億円の減少となった。今後は借入利率の見直し等を行い、元利償還金の圧縮に努める。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。